



あかまつ

鴻巣市立広田小学校

〒365-0005 鴻巣市広田3156-5

電話 048-569-0026

FAX 048-569-3196

E-mail hiroda-e@city.konosu.ed.jp

音読に取り組むことについて

校庭の木々の青葉若葉も映える季節となりました。先日の授業参観・懇談会に、多くの保護者の皆様にご参会いただきました。ありがとうございました。学校での子供たちの様子や担任・教職員の様子をお伝えすることができたのではないかと思います。また、4月25日（火）の離任式では、久しぶりに再会した先生方と嬉しそうにお話をする子供たちの姿が見られました。体育館にて式を行いました。演台の先生方のお話を聞く態度が大変立派でした。

さて、新学期が始まり学習活動も本格的に進んでまいります。各学級では、毎日のように宿題が出ているかと思えます。お子様は、丁寧に取り組んでいますでしょうか。今月の学校だよりは、家庭学習について、特に音読について述べていこうと思えます。

音読の宿題に取り組むとき、**お子様はしっかりと音読していますか**。子供たちの音読を保護者の皆様が聞いて確認をしていただけると、子供たちの文章を読む基礎が作られていきます。目を閉じて音読を聞き、意味が通じていれば、ある程度お子様は文章を理解していると考えます。つかえているようなら、その都度正しい読み方をその場で教え、繰り返し真似をさせます。このような取組を積み重ねているかいなかで、すらすらと文章を読み内容を理解する力—いわゆる読解力—に差が生まれてきます。

宿題としての取組はここまでですが、もう一步踏み込んで一よく自主勉強と呼びますが—音読した文章を一文ごとに暗唱します。次に段落ごとに、最後は文章全体へと暗唱の範囲を広げていきます。国語の教科書には、日本人として身に付けてほしい美文が掲載されています。それを暗唱できるようになると、美しい日本語が身に付くことでしょう。何より本人の自信になります。また、暗唱をすることにより文章の型を自分の中に取り入れることになり、文章を書く力も上がっていきます。そして、新たに目にする文章を読み理解する速さも上がっていきます。

IoT や AI、ビッグデータ解析など先進技術を活用して課題を解決するようになる社会である Society5.0 を日本は目指していますので、ICT 機器を使いこなすことの有効性が多く語られます。確かにその通りで、それらを子供たちが使えるようになることはもちろん大切で、学校でも教育活動に大いに取り入れています。だからといって、私たちが昔から取り組んできたアナログな学習方法をないがしろにするわけにはいきません。音読一つとってみても、丁寧に取り組むことで、子供たちは多くの日本語を読み書きする力を身に付けます。この力が基礎となって初めて、ICT 機器を自在に使いこなす、様々なデータの内容を理解し、情報を処理することができる、まだ私たち大人が体験していない社会を生き抜く力の素地を子供たちは身に付けていくのではないのでしょうか。

(文責 田川 豊)

《発見！広田小のいいところ》

今月は…「子供たちの登校の安全を見守っている方がたくさんいる！」です。

私は毎朝、登校時刻の安全見守りで広田交差点に立っています。車通りが多く、大型車も頻りに走り抜けます。そんな中、ドライバーに「子供たちが渡りますよ」と合図を送り、誘導棒や横断旗で子供たちの横断をサポートしてくださっている方々がいます。同じく正門前や一福前などでも同様に見守っていただいています。保護者の旗当番の皆様、交通指導員様、安全ボランティア様、主任児童委員様、民生児童委員様、広田駐在所様、交通安全協会様など、大変心強く感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。